

第1回懇話会でいただいた意見の概要

1 施設・管路の整備及び維持管理

- ・今後、課題に対する対策を説明するにあたっては、管路の事故件数の推移など、市民から見て分かりやすい指標を用いるなどの工夫をした方がいいのではないか。
- ・これまで行ってきた経営努力や業務改善の取組に対する、水道局の分析、評価についても、市民にとって分かりやすいよう工夫していただきたい。

2 マンパワーの確保

- ・水道事業に限らず、様々な分野で課題となっているが、公営企業として職員の育成方法も含め、長期的な観点から考えていくことが大事である。
- ・ベテラン職員の退職など現段階で把握できている課題については、先行きが見えているのであれば、今からでも対策がとれるのではないかと。
- ・検針員の確保について、業務内容や募集の状況など情報発信の仕方に改善の余地があるのではないかと。

3 収益減・コスト増への対応

- ・今後、対策を検討するにあたっては、これまでできていなかったこととその理由を提示いただきたい。
- ・ずっと料金改定を行わずに水道事業の経営を行っているが、現在の財務状況を踏まえると厳しい状況で、今後は更に厳しくなっていくのではないかと。
- ・ライフスタイルは常に変わっていくが、その中においても水道事業として、安定的に水を供給し続けていくために、長期的な観点から議論することが重要である。

4 経営基盤強化をめぐる国の動き

- ・「新潟県広域化推進プラン」に周辺市との施設連携について記載されているが、市の経営戦略と合致していないのではないかと。

5 大規模災害への備え

- ・能登半島地震では、水道本管の修理が終わっても、宅地内の給水管が壊れているため蛇口から水が出ないというところがかかなりあるというが、その問題の一つが水道工事を行う業者が不足していることにある。災害への備えのため、地元の小規模な水道工事業業者も含めて、今後の対策や連携について議論していく必要があるのではないかと。

6 次回以降の検討課題

- 挙げられた課題は全国の水道事業に共通のものだが、これらとは違う長岡市の特徴があれば、もう少し踏み込んで確認した方がいいのではないか。
- 今後の水道事業経営にあたっては、水道料金ありきではなく、まずは事業計画がどうあるべきかという議論が必要ではないか。
- 業務指標を用いた経営分析の結果を示すなど、市民に水道事業の状況を分かりやすく伝えるための工夫が必要ではないか。

7 全般事項

- 今後議論を進めるにあたっては、水道事業と簡易水道事業のどちらについて議論しているのかを常に明確にしていきたい。
- 将来の水道事業が安全かどうかを市民に判断いただけるよう、市民に向けて提案書を書くような気持ちで、今後、様々な資料を整理していきたい。